

第2章 会津坂下町の現況

第1節 都市の概況

1. 位置と歴史

(1) 都市の位置

会津坂下町は、福島県の西側、会津盆地の西部に位置する、南北、東西ともに約14km、面積9,159haの都市です。周囲を会津若松市、喜多方市、西会津町、柳津町、会津美里町、湯川村に接し、県都福島市まで約60km、郡山市まで約50km、会津若松市まで約10kmの距離にあります。また、新潟県、山形県までは約25km、栃木県までは約50kmの距離にあります。

J R只見線が町域南部から西部にかけて走り、若宮駅、会津坂下駅、塔寺駅、会津坂本駅の4駅があり、会津若松駅から会津坂下駅までの所要時間は約40分となっています。町域の中部に、いわき市から新潟市を連絡する磐越自動車道が東西に通じ、町域西端に会津坂下インターチェンジが、南部町境に接する会津美里町内に新鶴スマートインターチェンジが設けられています。広域幹線道路として、いわき市と新潟市を連絡する国道49号（越後街道）が東西に通っています。また、柏崎市方面を結ぶ国道252号が国道49号と連絡しています。

●広域位置図



（２）都市の沿革

本町は、会津盆地西縁のなだらかな山々と多くの河川があり、旧石器時代から人々が生活してきた痕跡があります。いにしえより、街道や河川を利用した新潟方面との人・物の流れが盛んで、会津盆地の出入り口となる地域には、亀ヶ森・鎮守森古墳などの大型古墳や要塞としての陣が峯城などが築かれました。

近世に入り会津五街道が整備されると、本町の中心市街地は、阿賀川・只見川の舟運と越後街道の宿駅として栄え、会津西部の物資の主要な集散地として発展してきました。領主蒲生忠郷の時代には8町24間（約900m）、幅約6間（約11m）の東西に延びる直線道路が敷かれ、その両側に町割りが行われ、定期的な市が開かれるようになりました。その後、坂下代官所や検断が配置されるなど周囲の経済的、政治的中心地となりました。また、市街地西の気多宮・塔寺地区は、越後街道・沼田街道の宿駅や心清水八幡神社・恵隆寺の門前町として形成されました。

明治以降も周辺地域の中心的役割を担い、明治10年に坂下村上町・坂下村中町・坂下村下町・横古村が合併して坂下町となり、その後河沼郡役所が置かれました。

大正時代には、上水道敷設、会津線（現JR只見線）坂下駅開業など都市的な基盤が整い始め、会津線の延伸にともなう若宮駅、塔寺駅、会津坂本駅の開業、簡易水道の整備、中学校の開校など、徐々に都市機能の充実が図られてきました。

昭和59年には坂本工業団地の第一期が完了し、企業立地によって働く場としての環境が向上し、その後、平成には坂下西第一地区・第二地区の土地区画整理事業、（都）坂下南幹線などの都市基盤が整備されました。

近年では、平成26年に「道の駅あいづ 湯川・会津坂下」が湯川村内の本町隣接地に整備され、広域交流拠点として賑わいを見せています。

● 歴史と沿革

元 号	年	西 暦	出 来 事
古墳時代		300年代	会津坂下町域に古墳群が築造され始める
延暦頃		800年頃	この頃大江郷が成立する
康平頃		1000年代	蜷河庄が成立する
保安頃	1	1100年代	陣が峯城が築城される
明治	5	1872	若松県下で若松警察署坂下分署が置かれる
	10	1877	福島県下において坂下村が坂下町となる
	42	1909	電話が開通
	43	1910	乗合バスが若松-坂下間で県下初の開通
大正	13	1924	上水道が給水開始
	15	1926	会津線（現只見線）若松-坂下間開通。坂下駅が開業
昭和	3	1928	会津線が会津坂下-会津柳津間を延伸。塔寺駅、会津坂本駅が開業
	9	1934	若宮駅が開業
	24	1949	上水道第1次拡張事業事業完了
	30	1955	坂下町、若宮村、金上村、広瀬村、川西村、八幡村の1町5ヶ村が合併し、会津坂下町となる
	31	1956	豪雨による大水害が発生
	33	1958	坂下第一中学校が開校
			片門簡易水道が給水開始
	35	1960	高郷村の高寺地区を編入
	36	1961	町役場本庁舎が落成
			坂下第二中学校が開校
			上水道第2次拡張事業事業完了
	38	1963	記録的な豪雪
	39	1964	新潟地震で大きな被害を受ける
	40	1965	西部広域簡易水道が給水開始
	41	1966	北裏バイパス（現国道49号）開通
	42	1967	町民体育館落成
			長井橋開通
			1市3町2ヶ村による清掃センター事業開始
	43	1968	農集自動電話開通
	44	1969	集中豪雨で高寺地区に大きな被害
	45	1970	学校給食センター落成
	46	1971	只見線全線開通
			上水道第3次拡張事業事業完了
	47	1972	第一次振興計画（基本構想）策定
			西部広域簡易水道第二次拡張事業着手
			会津若松地方広域市町村圏整備組合が発足
	49	1974	老人福祉センターが開設
	50	1975	中岩田住宅団地落成
	52	1977	町役場北庁舎が落成
	53	1978	上水道第4次拡張事業事業完了
	55	1980	袋原大橋・塔寺バイパスが開通
	56	1981	県立会津少年自然の家が開設
	58	1983	第二次振興計画（基本構想・基本計画）策定
			立川橋・県道会津坂下塩川線開通
	59	1984	坂本工業団地第一期工事完了
	61	1986	県道別舟渡線片門橋開通
	63	1988	鶴沼緑地公園が供用開始
平成	2	1990	会津西部斎苑が開設
			会津若松地方水道用水供給企業団からの受水による給水開始
			公共下水道（坂下西処理区）事業着手
	3	1991	ばんげひがし公園「鶴沼球場」開設
	4	1992	第三次振興計画（基本構想・基本計画）策定
			磐越自動車道会津坂下インターチェンジまで開通
	5	1993	農業集落排水（窪倉処理区）事業完了
	6	1994	町民プールが開設
			坂下西第一地区土地区画整理事業完了
	7	1995	春日八郎記念公園・おもいで館が開設
			上水道第5次拡張事業事業完了
	8	1996	農村環境改善センターが開設
			（都）中村街道線（安兵衛通り）が開通
	9	1997	農業集落排水（合川処理区）事業完了
	11	1999	公共下水道（坂下東処理区）事業着手
	12	2000	第四次振興計画（基本構想・基本計画）策定
	14	2002	農免農道八日沢線が開通
			（都）坂下南幹線（牛沢街道～会津高田街道間）開通
			国道49号坂本バイパス（七折峠トンネル）開通
	15	2003	会津坂下町まちづくり基本条例施行
	17	2005	磐越自動車道新鶴PAスマートIC開設
	18	2006	会青橋が完成・（都）坂下南幹線全線開通
			農業集落排水（八日沢処理区）事業完了
	20	2008	（町）中村線が開通
			坂下西第二地区土地区画整理事業完了
	21	2009	公共下水道（坂下中央処理区）事業着手
	22	2010	（一）別舟渡線舟渡バイパス開通
	23	2011	東北地方太平洋沖地震発生。原発事故による避難地域から町内に約1,000名が避難
			農業集落排水（真木・津尻処理区）事業完了（喜多方市が事業主体）
			農業集落排水（長井処理区）事業完了
	24	2012	中村街道線第一地区土地区画整理事業完了
	26	2014	道の駅あいづ 湯川・会津坂下を湯川村と共同開業

2. 社会的状況と土地利用及び都市基盤整備の状況

(1) 社会的状況

本町の人口や産業の概況は、以下のとおりです。

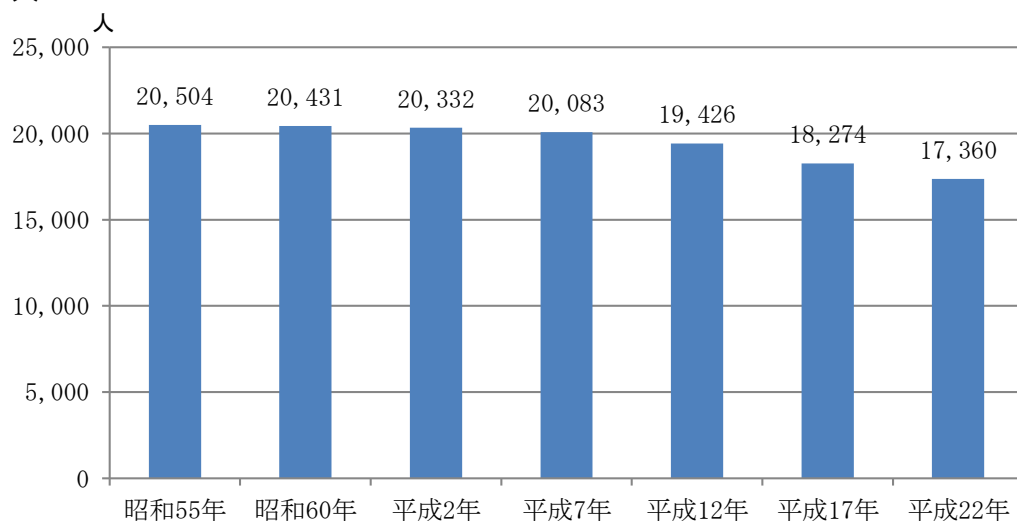
① 人口

総人口は、会津坂下町誕生以降減少傾向が続いており、平成22年（2010年）の人口は17,360人となっています。

平成17年から平成22年の人口増減率はマイナス5.0%ですが、周辺市町村に比べ減少率は低くなっています。

平成22年（2010年）の65歳以上の人口の総人口に占める割合（老年人口比率）は29.5%と高い割合となっています。（福島県の平均：25.0%）

● 人口

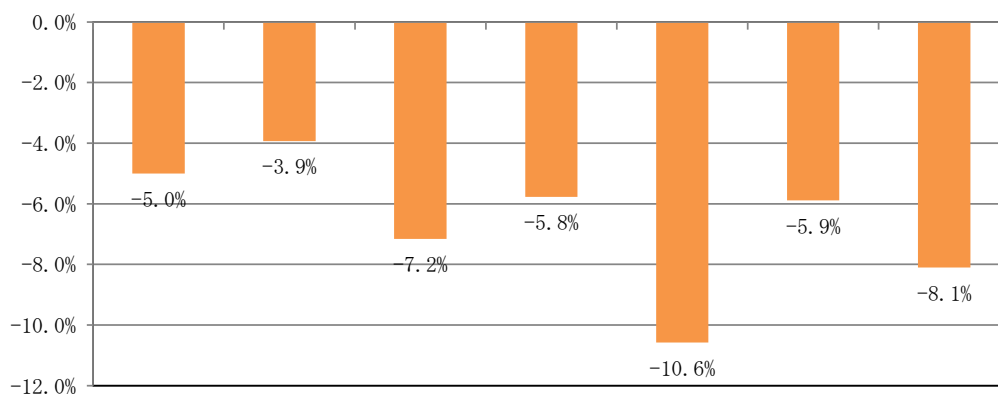


資料：国勢調査

● 会津坂下町周辺市町村の人口推移

(単位：人)

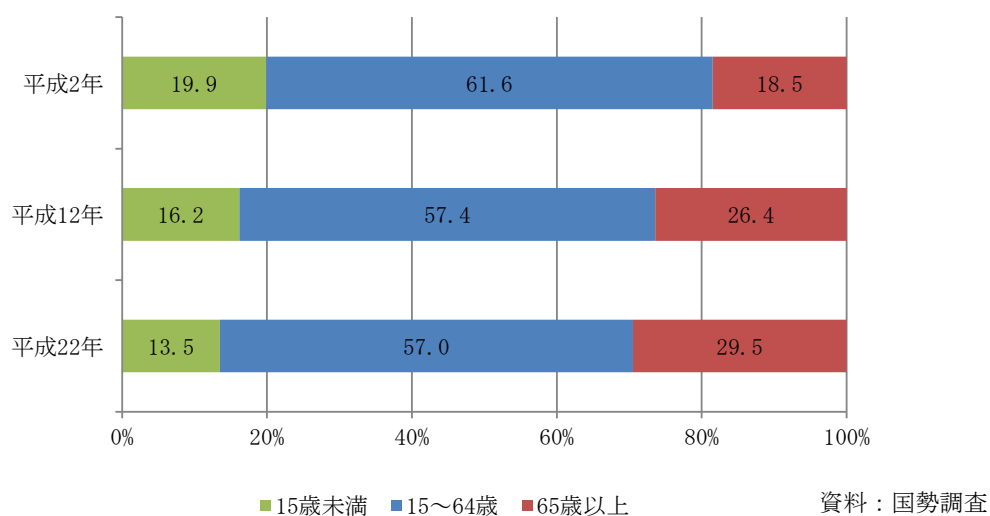
	会津坂下町	会津若松市	喜多方市	湯川村	西会津町	柳津町	会津美里町
平成17年	18,274	131,389	56,396	3,570	8,237	4,260	24,741
平成22年	17,360	126,220	52,356	3,364	7,366	4,009	22,737



5年間増減率

資料：国勢調査

● 年齢3区分別人口比の推移（年齢不詳分を除く）

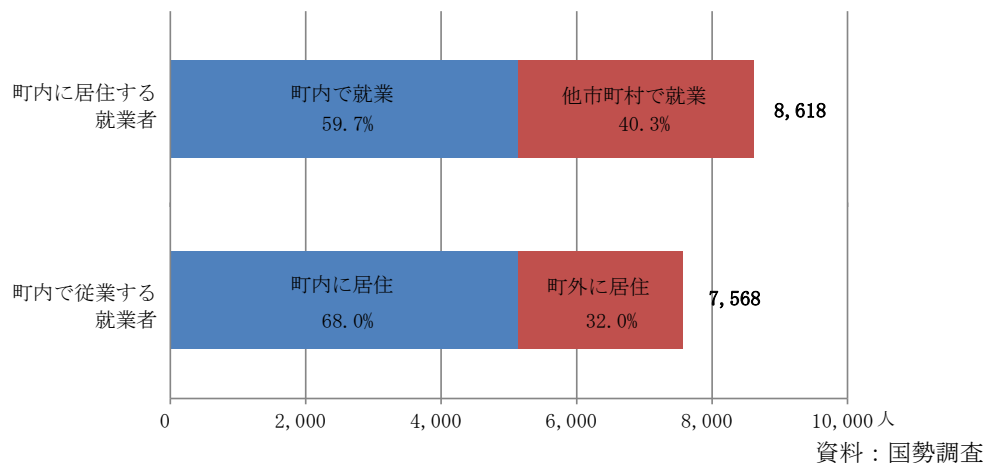


② 就業状況

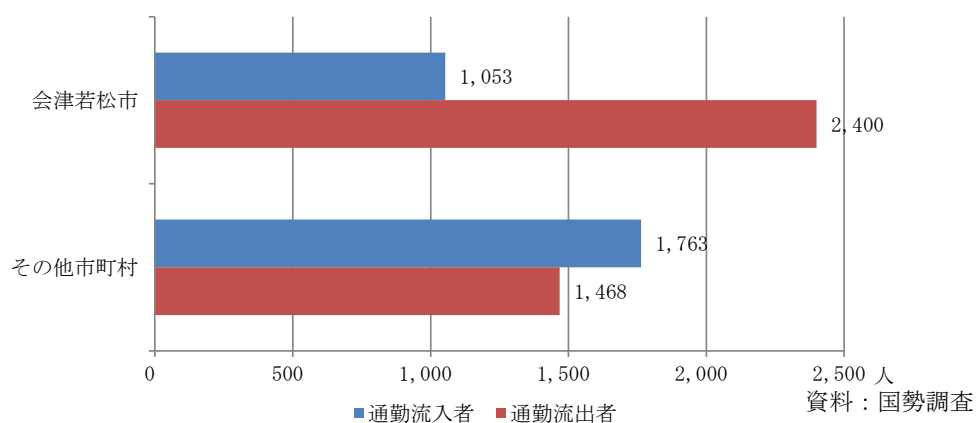
平成22年（2010年）の町内に居住する就業者は約8,600人であり、その内の約60%が町内で就業しています。

町内で従業する就業者は約7,600人であり、約1,000人の流出超過となっています。会津若松市には約1,300人の流出超過ですが、その他の近隣市町村に対しては流入超過となっています。

● 町内に居住する就業者数と町内で従業する就業者数（平成22年）



● 町内における通勤流入の状況（平成22年）

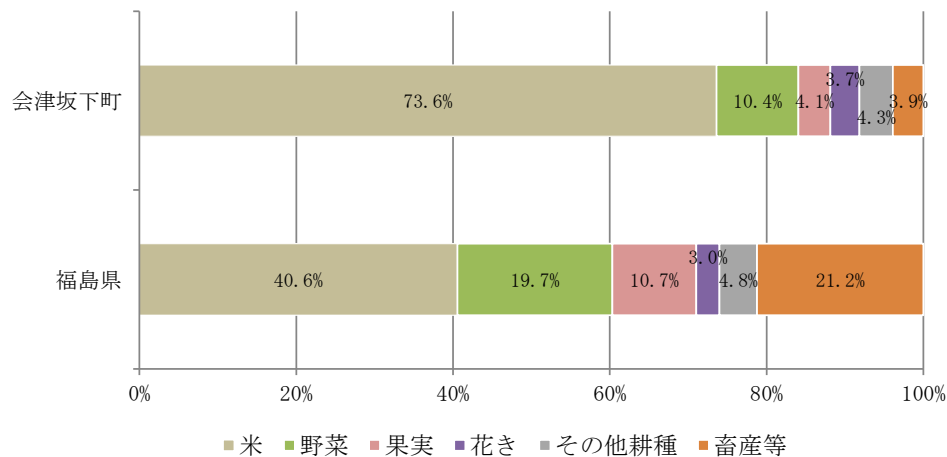


③ 産業

〔農業〕

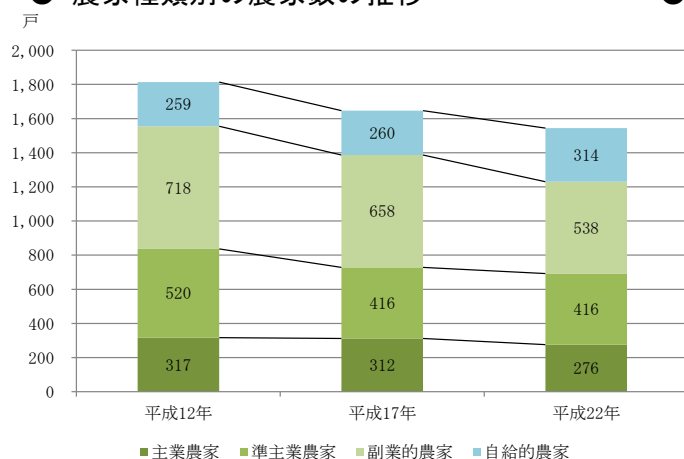
稲作を中心とした農業経営がなされており、県平均に比べ生産性は高い状況にあります。
しかしながら、農家の減少、従業者の高齢化が進んでいます。

● 農業産出額の品目別構成比（平成 17 年）



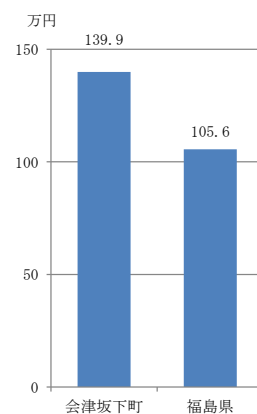
資料：農林業センサス

● 農家種類別の農家数の推移



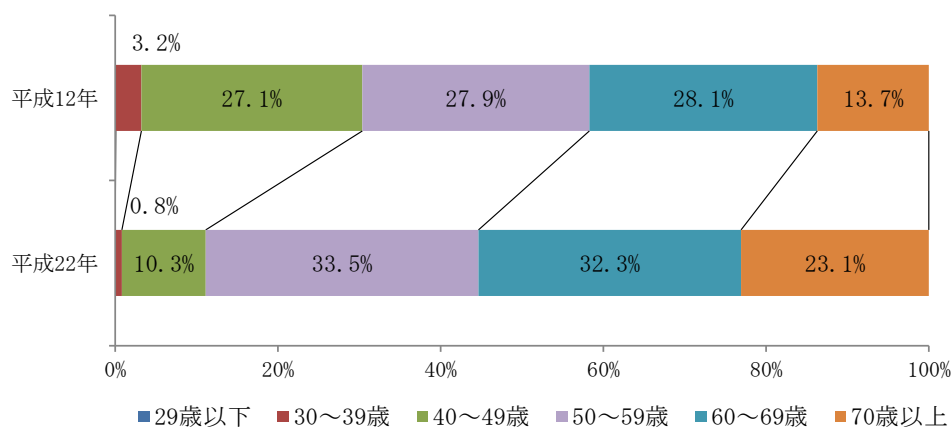
資料：農林業センサス

● 農家戸当たり生産所得（平成 22 年）



資料：農林業センサス

● 農業経営者の年齢別構成比の推移



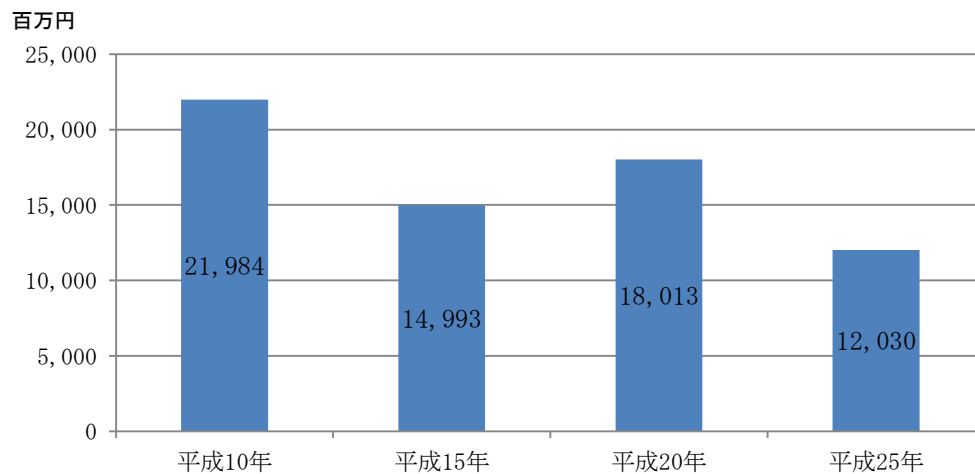
資料：町資料

〔製造業〕

平成25年（2013年）の製造品出荷額等は約120億円であり、減少傾向にあります。

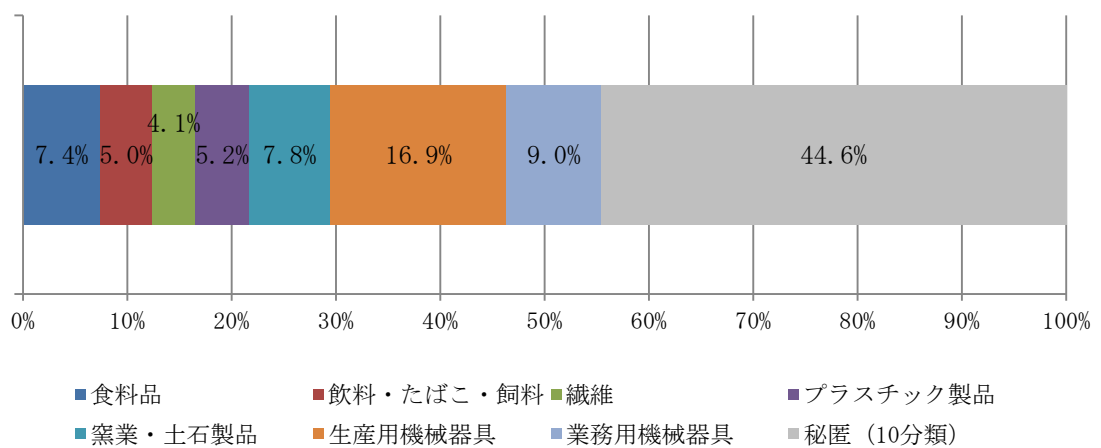
中分類別には、生産用機械器具、業務用機械器具、窯業・土石製品、食料品が中心となっています。

● 製造品出荷額等の推移



資料：工業統計

● 製造品出荷額等の中分類別構成比（平成25年）



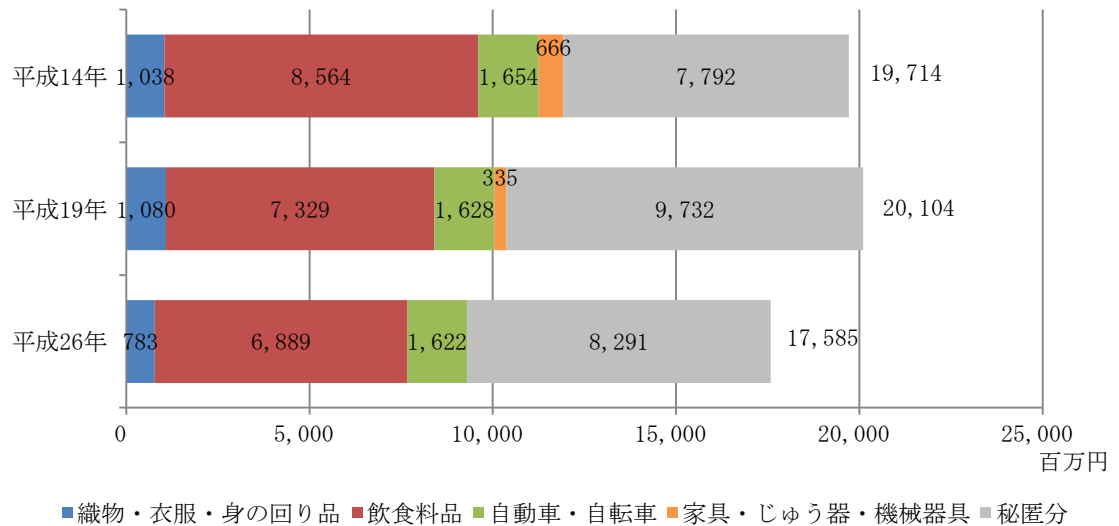
資料：工業統計

〔商業〕

平成26年（2014年）の小売業の年間商品販売額は約176億円であり、最寄り品中心の小売業が中心となっています。

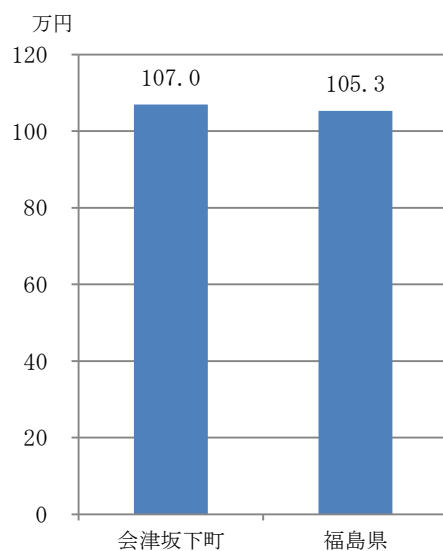
年間販売額は減少傾向にあり、平成26年（2014年）の人口一人当たり販売額は県平均並みとなっています。

● 年間商品販売額の推移と構成



資料：商業統計

● 人口一人当たりの販売額（平成26年）



資料：商業統計／福島県現住人口調査年報

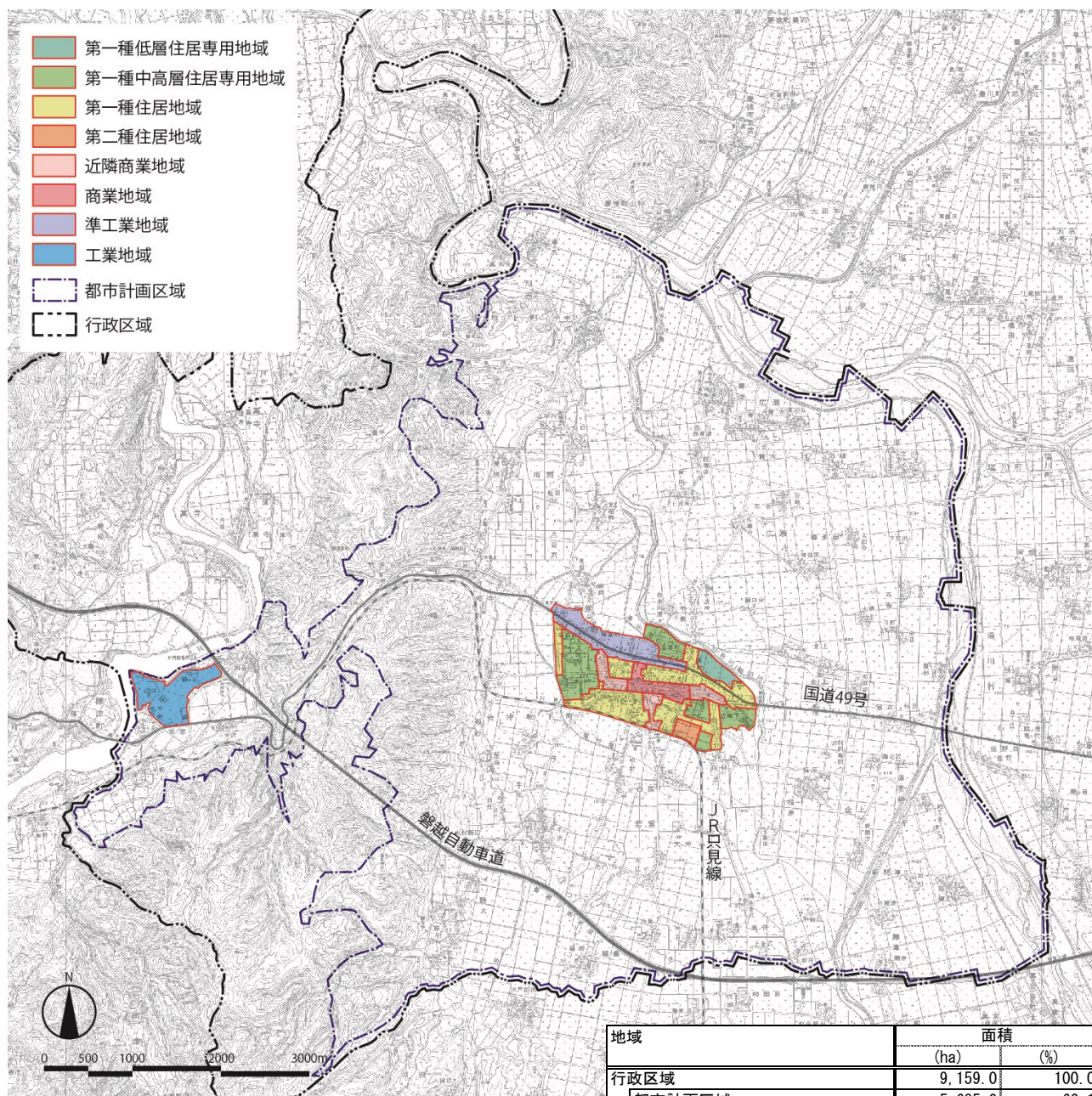
(2) 土地利用及び都市基盤整備等の状況

① 法規制の状況

行政区域面積9,159haの約6割、5,685haが都市計画区域となっています。

都市計画区域では、中心市街地と磐越自動車道会津坂下インターチェンジ周辺の工業団地の約261ha（都市計画区域の約4.6%）に用途地域が指定されています。

● 都市計画区域・用途地域図



地域	面積	
	(ha)	(%)
行政区域	9,159.0	100.0
都市計画区域	5,685.0	62.1
用途地域	261.1	4.6
第一種低層住居専用地域	7.8	3.0
第一種中高層住居専用地域	58.0	22.2
第一種住居地域	85.0	32.6
第二種住居地域	6.3	2.4
近隣商業地域	19.0	7.3
商業地域	15.0	5.7
準工業地域	35.0	13.4
工業地域	35.0	13.4
都市計画区域外	3,474.0	37.9

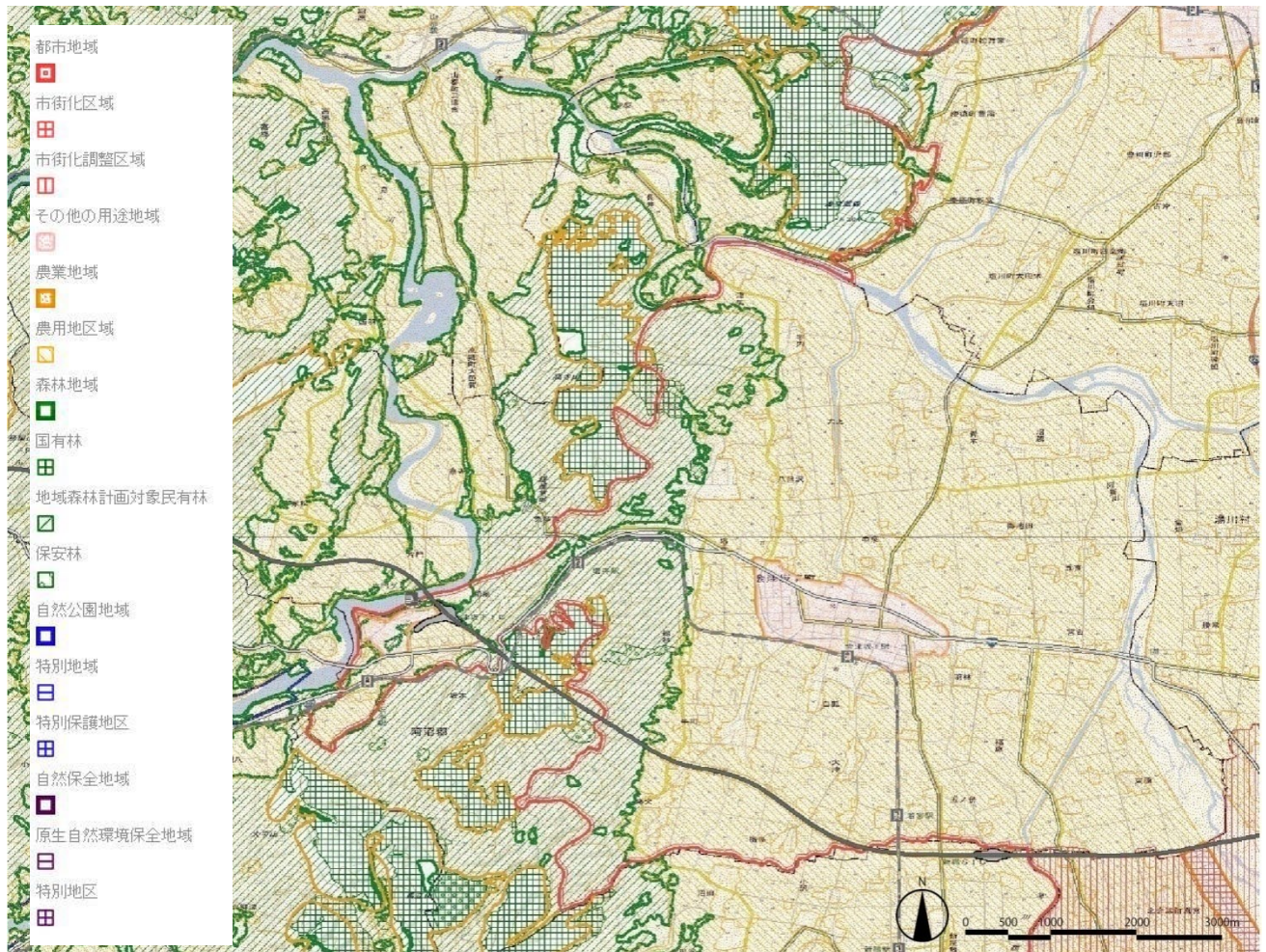
※用途地域ごとの比率は全用途地域面積に対する値
※用途地域の合計の比率は都市計画区域に対する比率

資料：平成25年都市計画基礎調査（平成22年度末現在）（最新の行政面積とは異なる）

農業振興地域は行政区域の約9割（8,091ha）にかけられ、その内約3,792haが農用地区域に指定されています。

山林部では、広い範囲が地域森林計画対象民有林となっています。

● 土地利用基本計画図



資料：福島県土地利用基本計画図（平成 14 年）

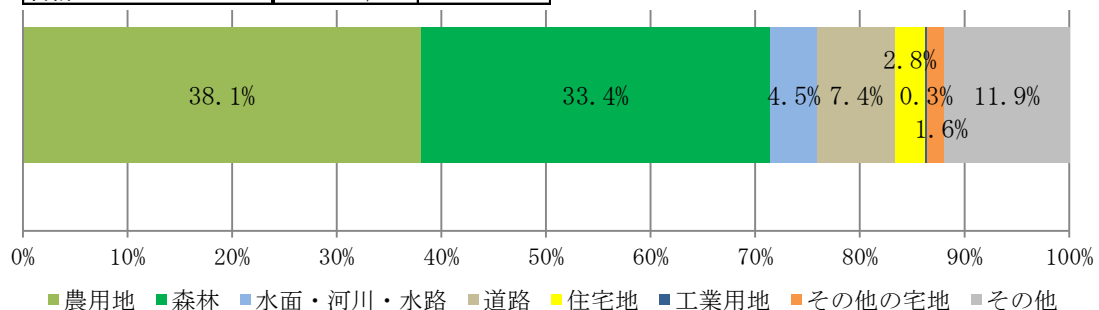
② 土地利用状況

平成22年（2010年）の地目別の土地面積の割合は、自然的土地利用が全体の8割弱を占めています（農用地：約38%、森林：約33%、水面・河川・水路：約5%）。

坂下地区では比較的密度の高い市街地が展開しています。

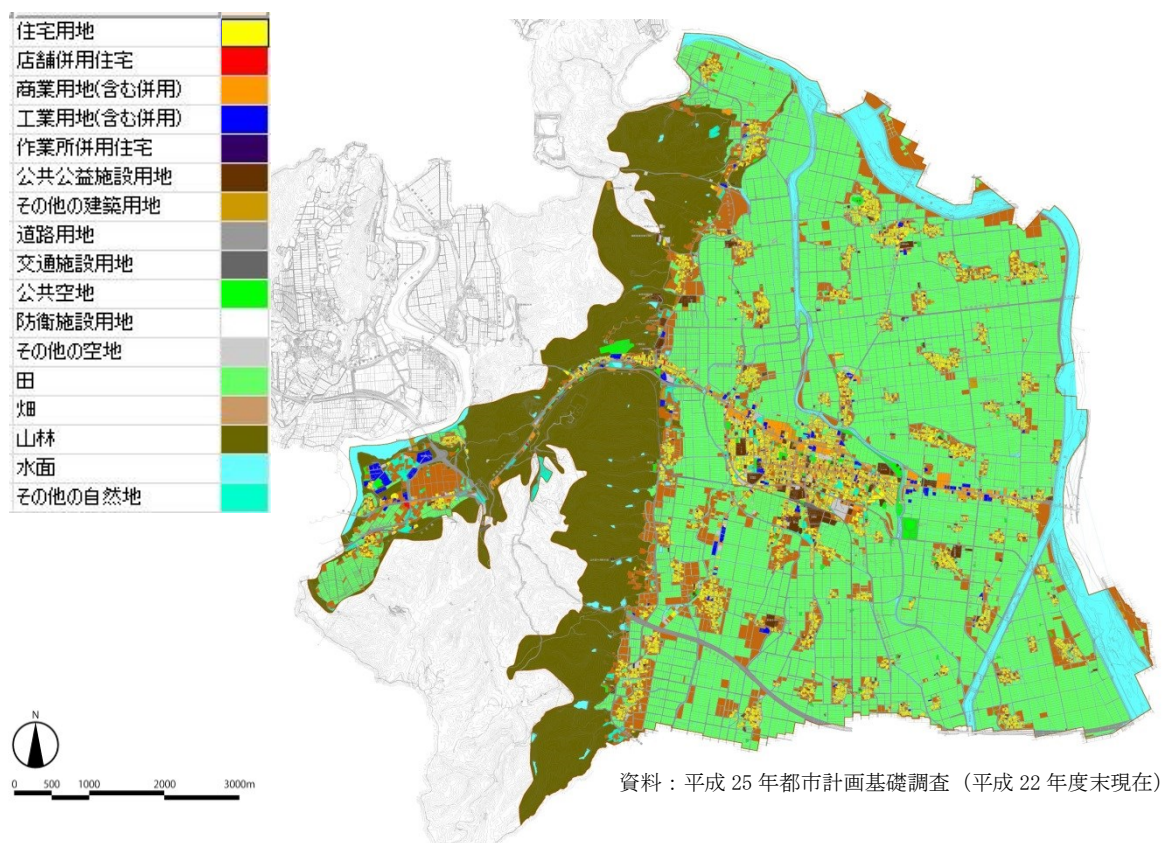
● 土地利用別の面積と構成比（平成 22 年）

土地利用区分	面積 (ha)	構成比 (%)
農用地	3,490	38.1
森林	3,056	33.4
水面・河川・水路	416	4.5
道路	675	7.4
宅地	433	4.7
住宅地	261	2.8
工業用地	25	0.3
その他の宅地	147	1.6
その他	1,089	11.9
合計	9,159	100.0



資料：会津坂下町国土利用計画（平成 24 年）（最新の行政面積とは異なる）

● 都市計画区域の土地利用現況図



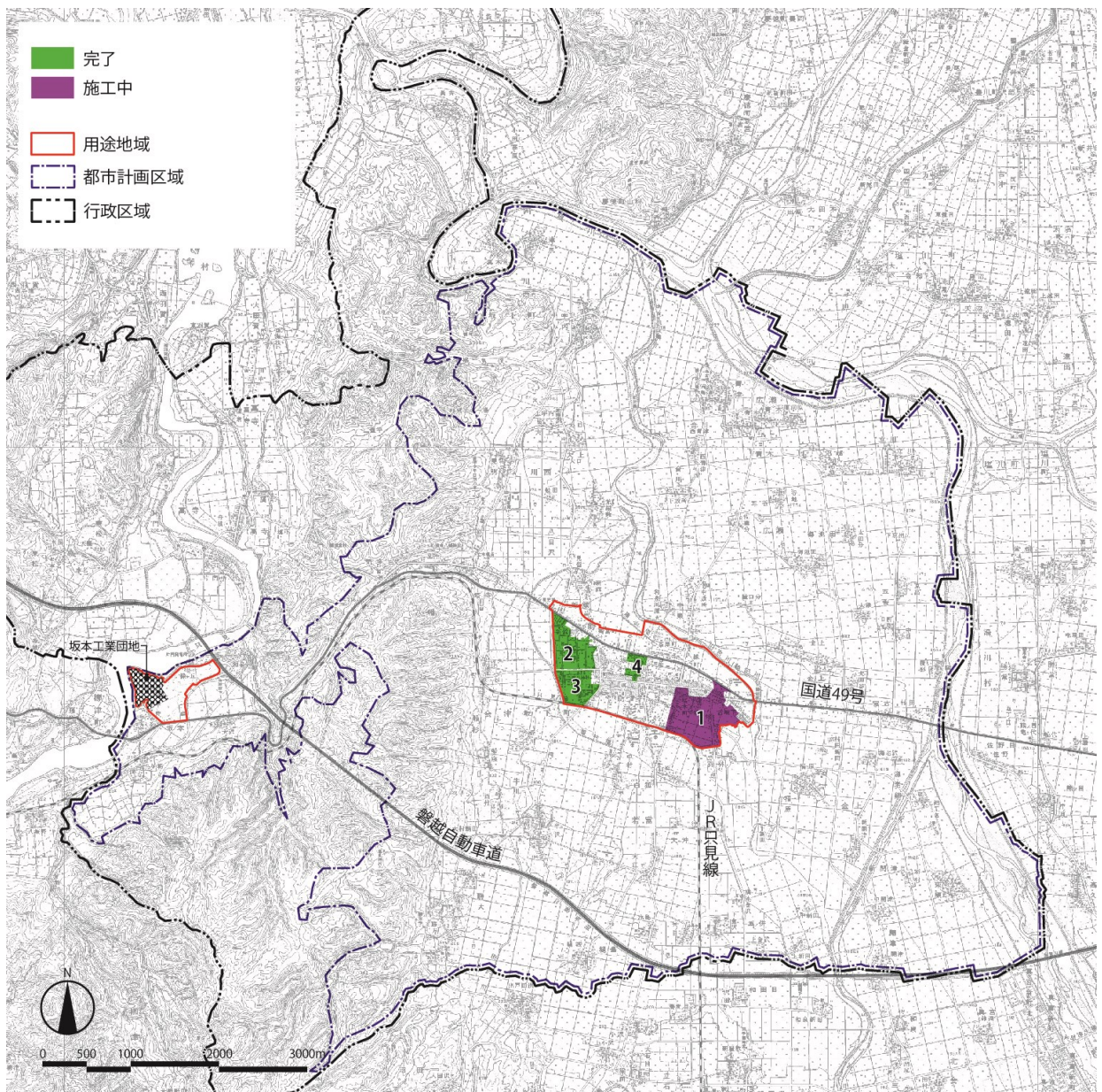
③ 市街地整備の状況

面的基盤整備事業は4地区、約81haで実施されています。

その他に、磐越自動車道会津坂下インターチェンジ周辺で坂本工業団地が造成されています。

● 市街地整備事業

図面対照 番号	事業名	事業手法	事業主体	都決年	事業面積 (ha)	事業進捗	事業 開始年度	事業 終了年度	計画人口 (人)
1	坂下東第一地区土地区画整理事業	土地区画整理事業	公共団体施行	平成3年	39.1	施工中	平成4 年度	平成38 年度	2500
2	坂下西第一地区土地区画整理事業	土地区画整理事業	組合施行	平成元年	22.0	完了	昭和63 年度	平成6 年度	660
3	坂下西第二地区土地区画整理事業	土地区画整理事業	組合施行	平成9年	15.3	完了	平成10 年度	平成20 年度	1340
4	中村街道線第一地区土地区画整理事業	土地区画整理事業	公共団体施行	平成2年	4.7	完了	平成2 年度	平成21 年度	280



資料：平成25年都市計画基礎調査（平成22年度末現在）／町資料

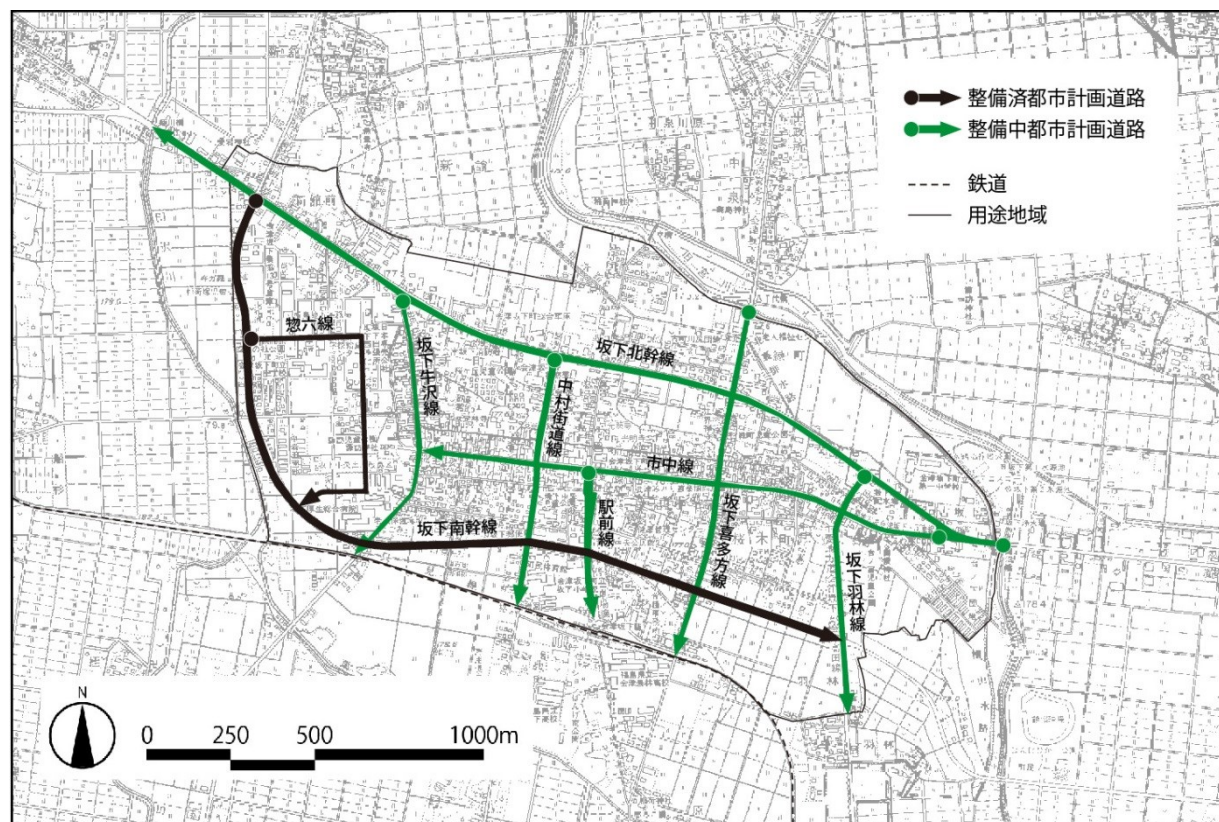
④ 都市基盤施設

〔都市計画道路〕

都市計画道路は、9路線、総延長12,030mが計画決定されています。その内2路線が整備済みであり、整備率は約31%となっています。

● 都市計画道路の整備状況

	路線数	延 長	延長割合
整備済み路線	2	3,710m	30.8%
整備中路線	7	8,320m	69.2%
未整備路線	0	0 m	0.0%
合 計	9	12,030m	100.0%



〔公園緑地〕

都市計画公園・緑地は10箇所、18.09haが計画決定されており、17.87haが供用されています。

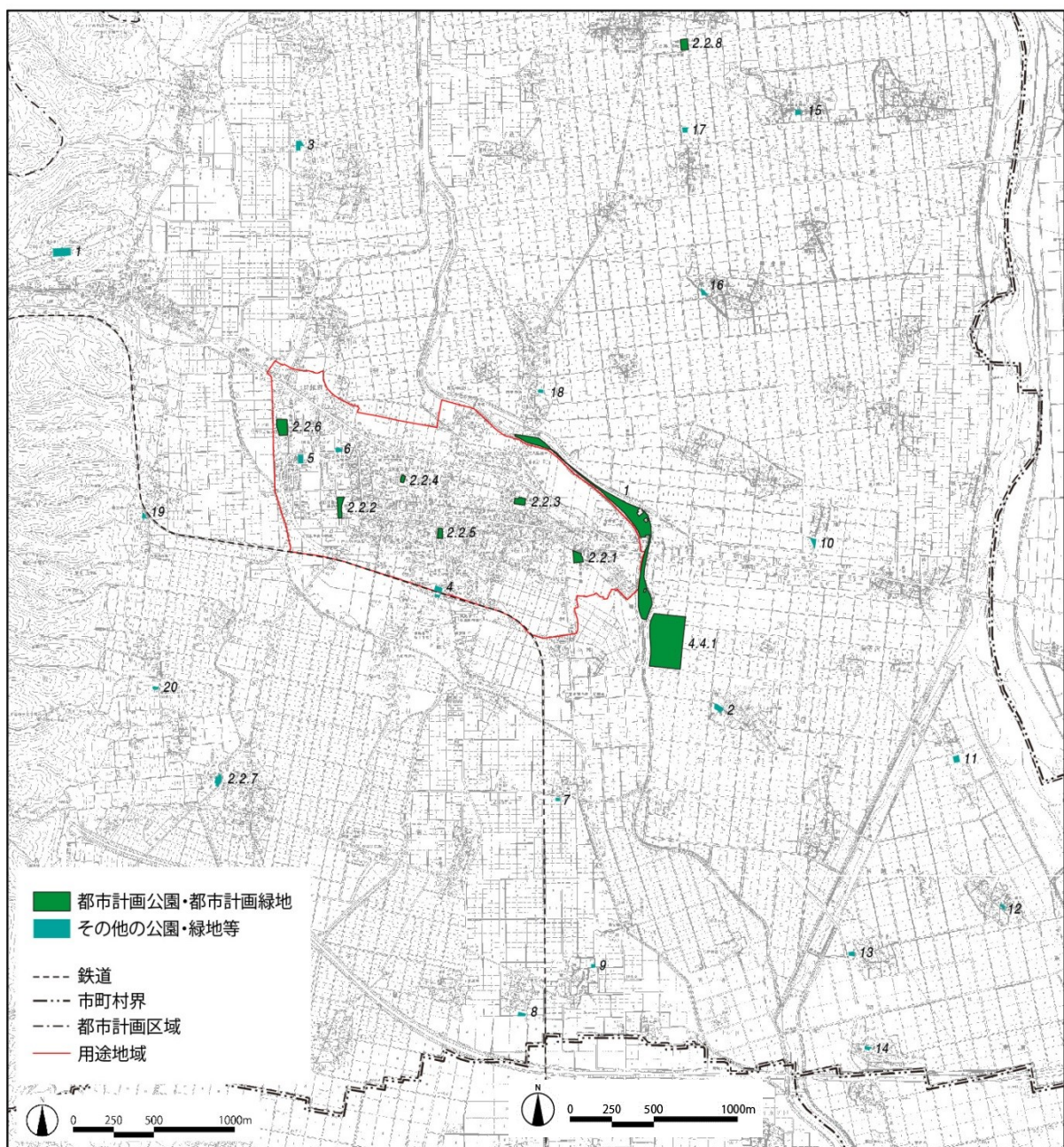
公園、緑地は、都市公園とその他の公園、緑地の合計で、25.26haが整備されており、都市計画区域人口一人当たりの面積は約15.7㎡となっています。

● 都市計画公園・緑地の整備状況

	箇所数	面積 (ha)	供用面積 (ha)	供用率 (%)
都市計画公園	9	9.03	8.81	97.6%
都市計画緑地	1	9.06	9.06	100.0%
合 計	10	18.09	17.87	98.8%

● 都市計画区域人口1人当たり公園面積

	供用 面積 (ha)	平成22年 都市計画区 域人口(人)	1人当たり 供用面積 (㎡/人)	
			会津坂下町	福島県
都市計画公園	8.81	16,100	15.7	9.0
都市計画緑地	9.06			
上記以外	7.39			
合 計	25.26			

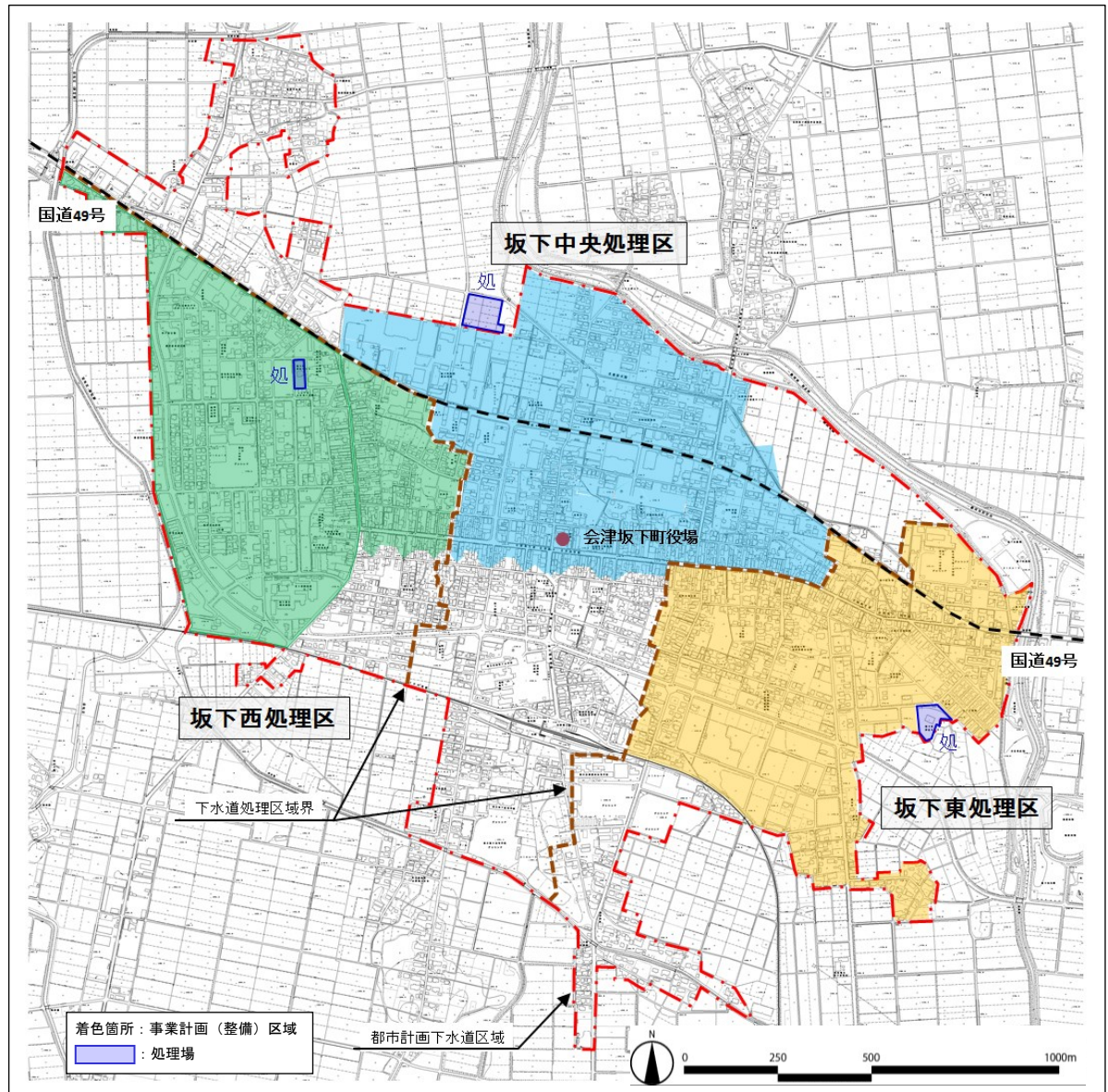


資料：平成 25 年都市計画基礎調査（平成 22 年度末現在）／町資料

〔汚水処理〕

汚水処理は、公共下水道、農業集落排水、合併処理浄化槽により行われており、平成27年度末の汚水処理人口の普及率は54.4%（公共下水道：22.7%、農業集落排水：8.0%、合併処理浄化槽：23.7%）となっています。

● 公共下水道処理区域図



資料：町資料（平成28年）

〔上水道〕

地下水を利用している一部区域を除き、上水道により給水されており、平成27年度末の水道普及率は94.1%となっています。

⑤ 文化財等

本町は古い歴史を持ち、多くの文化財が残っており、亀ヶ森・鎮守森古墳、陣が峯城跡は国指定の史跡となっています。

塔寺・気多宮地区は、旧越後街道沿いのまち並みとして歴史的な景観を残しています。

● 指定文化財一覧（平成 27 年現在）

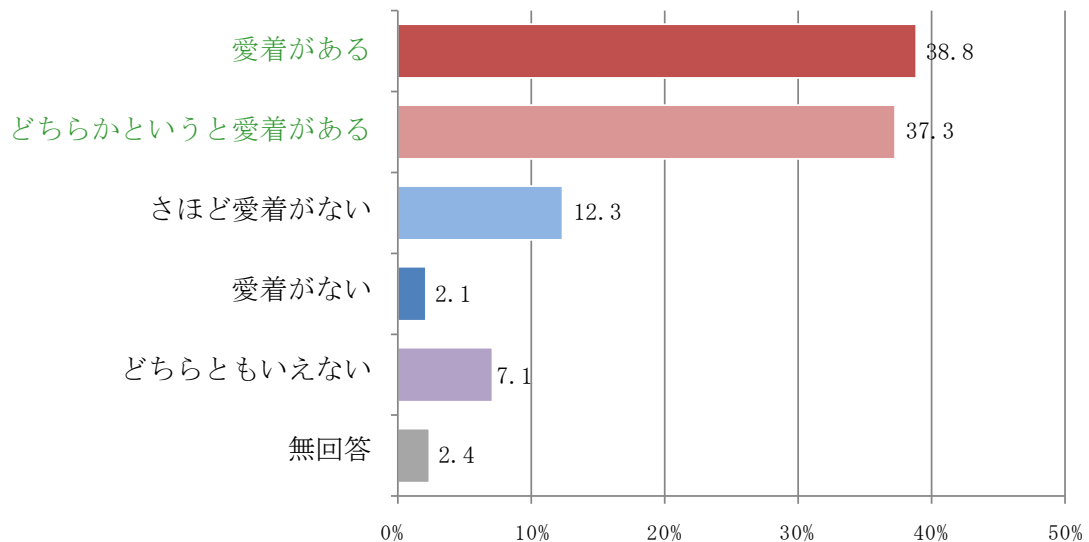
	文化財名	種類	所有者(管理者)	所在地(行政区)
国指定 8件	恵隆寺観音堂	重文 建造物	恵隆寺	恵隆寺(塔寺)
	木造千手観音立像	重文 彫刻	恵隆寺	恵隆寺(塔寺)
	木造薬師如来坐像	重文 彫刻	浄泉寺	上宇内薬師堂(大上)
	塔寺八幡宮長帳	重文 書跡	心清水八幡神社	心清水八幡神社(塔寺)
	鰐口	重文 工芸品	心清水八幡神社	心清水八幡神社(塔寺)
	旧五十嵐家住宅	重文 建造物	会津坂下町	塔寺
	亀ヶ森・鎮守森古墳	史跡	青津区 ほか	青津
	陣が峯城跡	史跡	会津坂下町	宇内
県指定 13件	鉄鉢	重文 工芸品	心清水八幡神社	心清水八幡神社(塔寺)
	絹本着色光明本尊	重文 絵画	光照寺	光照寺(茶屋町)
	絹本着色十六善神像	重文 絵画	正徳寺	正徳寺(青木)
	木造薬師如来坐像	重文 彫刻	定徳寺	定徳寺(中政所)
	木造薬師三尊及び十二神将立像	重文 彫刻	長龍寺	長龍寺(片門)
	木造二十八部衆 風神・雷神共	重文 彫刻	恵隆寺	恵隆寺(塔寺)
	木造日光菩薩立像	重文 彫刻	浄泉寺	上宇内薬師堂(大上)
	木造月光菩薩立像			
	木造宝光虚空蔵菩薩立像			
	木造聖観音菩薩立像			
	木造阿弥陀如来坐像	重文 彫刻	薬王寺	薬王寺(杉)
	古絵馬	有形民俗文化財	上宇内地区	上宇内薬師堂(大上)
	杵が森古墳	史跡	会津坂下町	新富町
	天屋の束松	天然記念物	天屋区 ほか	束松峠(天屋)
	森北1号墳出土品	考古資料	会津坂下町	福島県立博物館
	陣が峯城跡出土品	考古資料	会津坂下町	中央公民館分室
町指定 26件	木造十二神将立像	重文 彫刻	浄泉寺	上宇内薬師堂(大上)
	木造勢至菩薩立像	重文 彫刻	恩乗寺	恩乗寺(沼越)
	木造聖観音菩薩立像	重文 彫刻	京出観音堂	京出観音堂(五香)
	木造阿弥陀如来坐像	重文 彫刻	天屋阿弥陀堂	天屋区阿弥陀堂(天屋)
	木造薬師如来坐像	重文 彫刻	薬王寺	薬王寺(杉)
	木造地藏菩薩坐像	重文 彫刻	地藏寺	地藏寺(細工名)
	光明寺楼門	重文 建造物	光明寺	光明寺(仲町)
	木造宝冠釈迦如来坐像	重文 彫刻	定林寺	定林寺(柳町)
	絹本着色浄土曼荼羅	重文 絵画	無量寺	新館
	紙本着色浄土高祖絵系図			
	木造薬師如来坐像	重文 彫刻	恵隆寺	塔寺
	木造阿弥陀如来坐像(伝紅玻璃阿弥陀)	重文 彫刻	恵隆寺	塔寺
	炭州遺品	歴史資料	正徳寺	青木
	木造阿弥陀如来立像	重文 彫刻	浄泉寺	青津
	木造金剛力士立像	重文 彫刻	恵隆寺	塔寺
	牛沢甚句踊	無形民俗文化財	牛沢甚句保存会	牛沢
	青津甚句踊	無形民俗文化財	青津甚句保存会	青津
	權	有形民俗文化財	二瓶秀泰	金上
	旧大法院薬師堂並びに仏具等	有形民俗文化財	小林美代子	勝方
	旧五十嵐家住宅付属建物(厠・糶倉)	有形民俗文化財	会津坂下町	塔寺
	束松の一里塚	史跡	天屋区	天屋
	駒壇経塚	史跡	猪俣治	長井
	イトヨ	天然記念物	青木区	青木
	天津栗津田一号	天然記念物	磯目仁	牛沢
	杉の糸桜	天然記念物	杉区	杉
	佐原家文書	重文 工芸品	会津坂下町	福島県立博物館
	生江敬久家文書	歴史資料	生江敬久	会津坂下町

第2節 町民意向

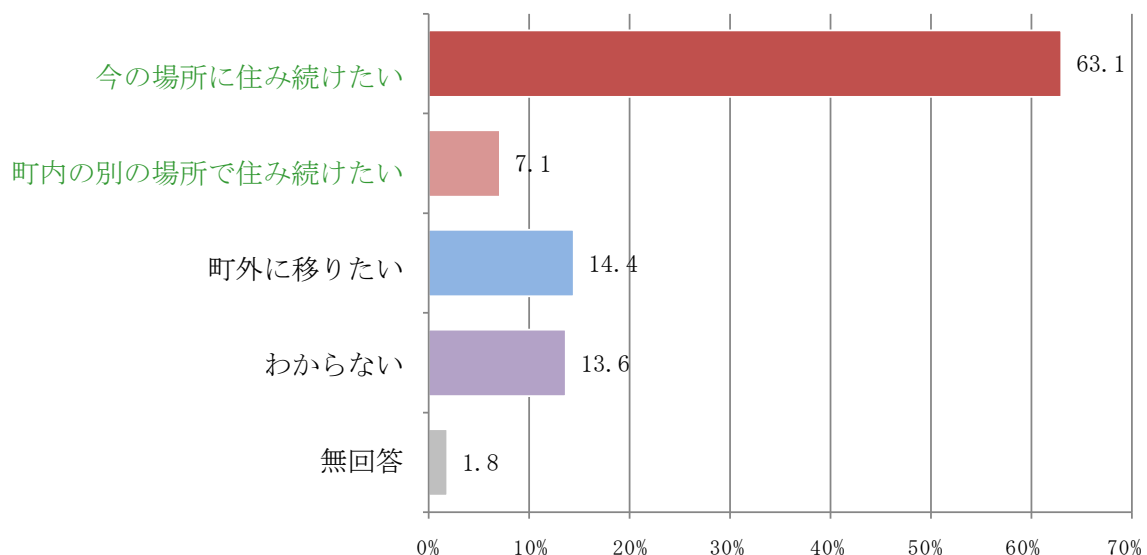
会津坂下町都市計画マスタープランの策定にあたり、町民の皆さんに対する意識調査を実施しました。この意識調査で寄せられた主な要望・意向等は次のとおりです。

1. 会津坂下町への愛着と居住継続意向

本町に対して愛着があるとする人の割合（「愛着がある」と「どちらかというとな愛着がある」の合計）は、全体の8割弱と高い割合を示しています。



また、今後の居住継続意向がある人（「今の場所に住み続けたい」「町内の別の場所で住み続けたい」と回答した人）も全体の7割強を占めています。

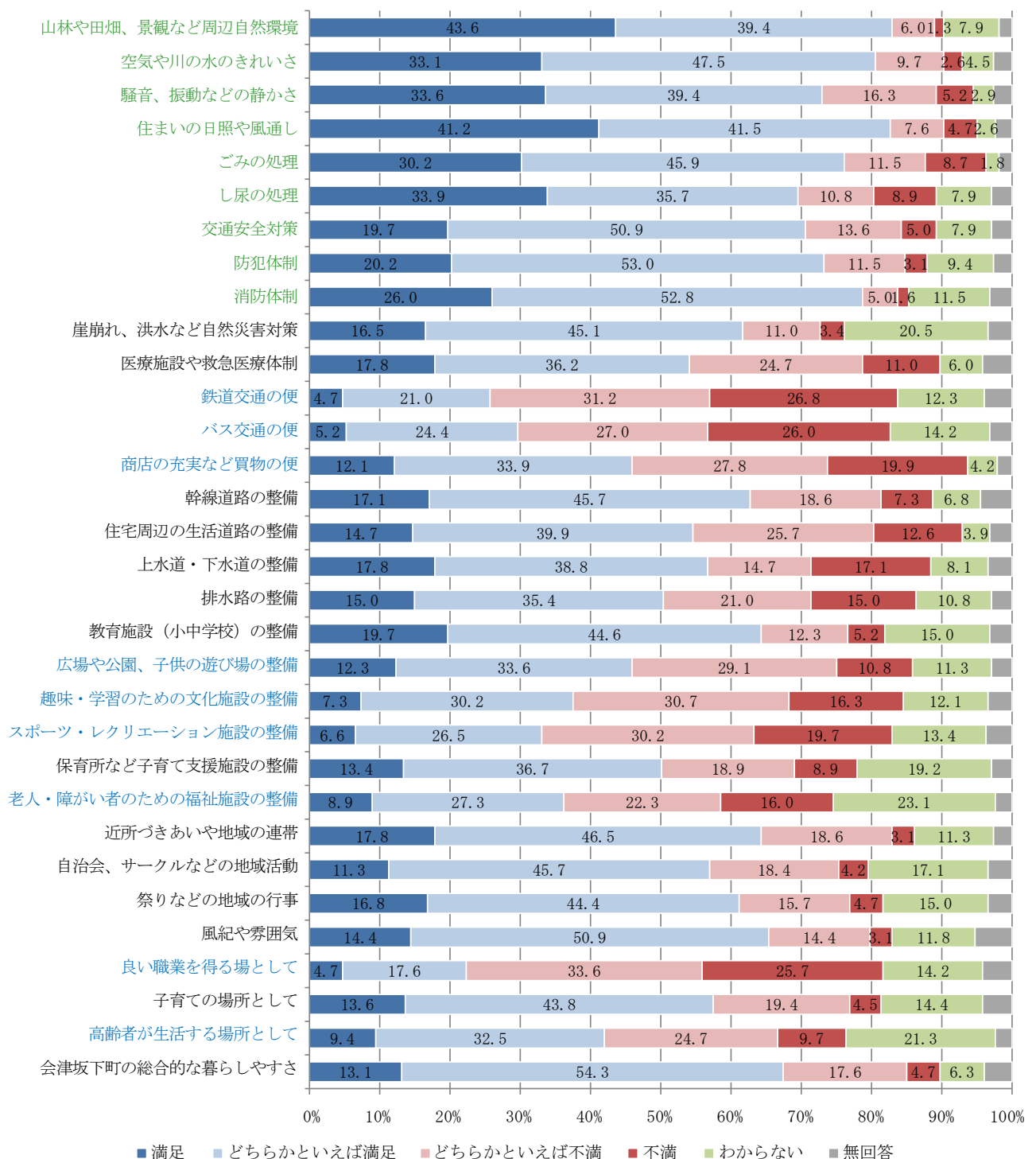


2. 地域の環境評価

「山林や田畑、景観などの周辺自然環境」「空気や川の水のきれいさ」「騒音、振動などの静かさ」「住まいの日照や風通し」「ごみの処理」「し尿の処理」「交通安全対策」「防犯体制」「消防体制」に対しては満足とする傾向が高く、『快適さ』『衛生』『安全』に関する環境が評価される結果となっています。

一方、不満とする傾向が見られるものは、「良い職業を得る場として」「バス・鉄道の交通の便」「商店の充実など買物の便」「広場や公園、子供の遊び場の整備」「趣味・学習のための文化施設の整備」「スポーツ・レクリエーション施設の整備」「老人・障がい者のための福祉施設の整備」「高齢者が生活する場所として」となっています。

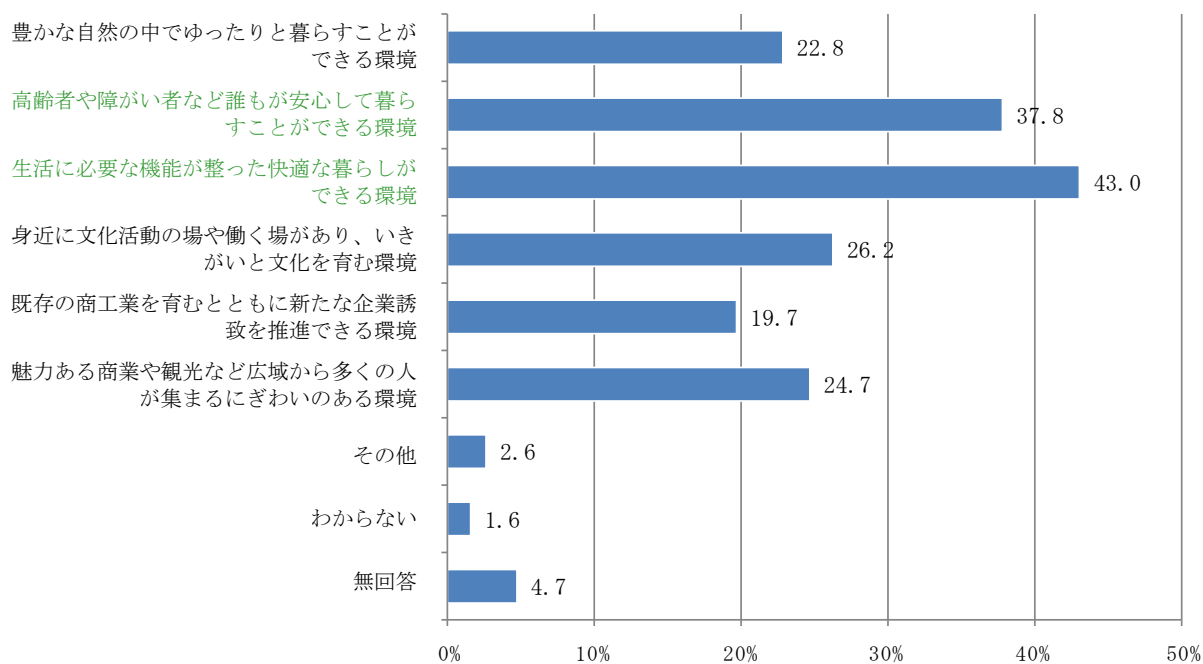
本町での生活を取り巻く環境の総合的な評価については、7割弱の人が「満足している・どちらかと言えば満足」としています。



3. 将来のまちづくりの方向性

将来のまちづくりの方向性については、「生活に必要な機能が整った快適な暮らしができる環境」が4割強、「高齢者や障がい者など誰もが安心して暮らすことができる環境」が4割弱から回答を得ています。また、その他の方向性は2割前後から回答を得ています。

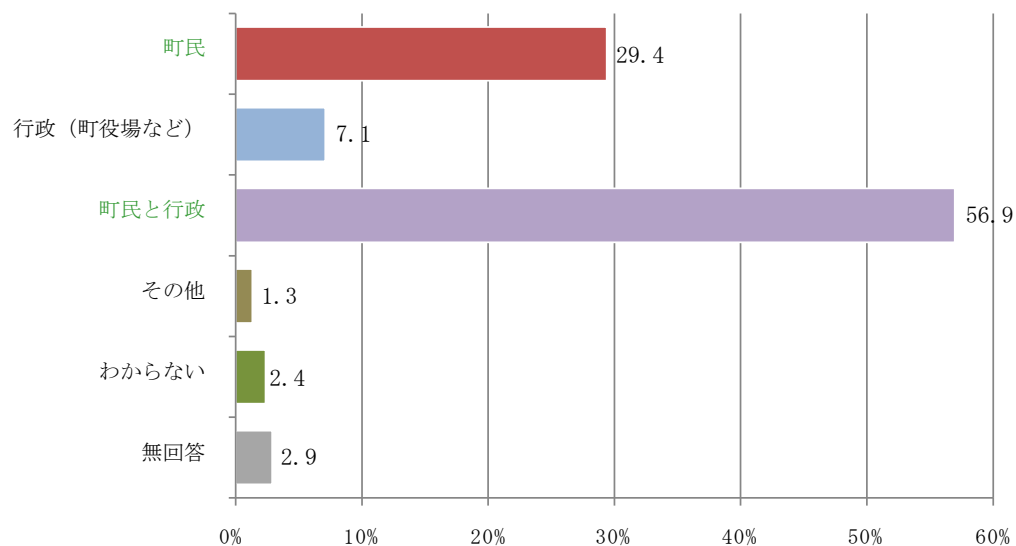
総じて、今後とも住み続けていくために必要な居住環境を基本として、ゆとり、活力など幅広い機能育成が求められていることが分かります。



(※ 2 つ以内で回答を求めているため、合計すると100%を超えています。)

4. まちづくりの担い手とまちづくりへの協力意向

まちづくりの担い手について、「町民」「町民と行政」と答えた人が9割弱と多く、まちづくりの担い手としての意識が高いこと、行政と町民のパートナーシップの重要性が認識されつつあることが分かります。



まちづくりへの協力意向のある人（「自分から進んで協力したい」「自分から進んではやらないが、依頼されれば協力する」と回答した人）は6割弱を占めており、積極的な意識が見られます。

